



「風さやか」通信（第4号）



「風さやか」の生育状況（幼穂形成期）

最高分けつ期を過ぎ、茎の中で幼穂が形成される頃となりました。農業試験場（須坂市 5月20日田植え、中苗）では7月16日に幼穂形成期に入り、平年よりも1日早い状況です。

また、安曇野市（標高550m、5月20日田植え）での幼穂形成期の予測は、稚苗で7月20日、中苗で7月16日となっており、追肥時期を迎えています（松本農業農村支援センター情報提供）。



中野市内の「風さやか」(7月19日)
※写真左にある機器は水田水位を計測する「水田センサー」

7月中下旬の「風さやか」栽培の留意点・ポイント

茎の中の幼穂長を確認して、適期・適量追肥を！

「風さやか」追肥時期は幼穂長2mm~10mm、窒素量で3kg/10a以上になる場合は2回に分ける

イネの茎をカッターなどで切り裂いて、中にある幼穂の長さ（幼穂長）を確認します。

「風さやか」の追肥時期は、幼穂形成期（幼穂長2mm）～出穂18日前（幼穂長10mm）です。

追肥量は窒素量で、栽培地のコシヒカリ並み～+1kg程度/10aが基準ですが、7月上旬（最高分けつ期）の生育診断（分けつ数など）と、8月の登熟期の天候など気象予報をもとに判断します。

なお、基肥で一発型肥料を施用した場合は、追肥は不要です。



イネの幼穂

病害虫対策はお早めに！

主要病害虫は、「いもち病」と「斑点米カメムシ」

長雨の影響で「いもち病」の発生が確認されている地域があります。

「風さやか」は「コシヒカリ」に比べ抵抗性は強いですが、多発が予想される場合は防除が必要です。

「斑点米カメムシ」は注意報が発表されましたが、対策として出穂2週間前には畦畔（イネ科雑草が発生源！）の草刈りを済ませておきましょう。



いもち病の病斑(葉いもち)

※ 7月に入り、多雨・日照不足の傾向で水稻の生育はやや停滞気味となり、各地の生育進捗は平年並み～2日程度進んでいるようです。ただし、気象庁による向こう3か月の予報では高温傾向となる確率が高いと予想されていますので、引き続き、高温障害対策を念頭に栽培管理を進めてください。

お問い合わせ先：「風さやか」推進協議会（長野県農政部農業技術課内 担当：伊東）

TEL: 026-235-7221 FAX: 026-235-8392 e-mail: kazesayaka@pref.nagano.lg.jp